

ディスカバー
むら 農山漁村の宝 AWARD
～第11回選定～

DISCOVER MURANO TAKARA AWARD

農山漁村の元気は
日本の宝



農林水産省

「ディスカバー農山漁村の宝」の概要

趣旨

「ディスカバー農山漁村の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化や所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信するものです。

有識者懇談会委員 (五十音順、敬称略)



あん・まくどなるど
上智大学
アイランド
サステナビリティ研究所
所長



今村 司
札幌テレビ放送(株)
取締役副社長



織作 峰子
大阪芸術大学教授
写真家



田中 里沙
事業構想大学院大学学長



永島 敏行
俳優
(有)青空市場代表取締役



林 良博
(有識者懇談会座長)
国立科学博物館顧問
東京大学名誉教授



藤井 大介
(株)大田原ツーリズム
代表取締役社長
(株)ファーム・アンド・
ファームカンパニー
代表取締役社長



三國 清三
(株)ソシエテミクニ
代表取締役



向笠 千恵子
フードジャーナリスト
食文化研究者
郷土料理研究者



横石 知二
(株)いるどり
代表取締役社長

対象となる取組

- ◆ 美しく伝統ある農山漁村の次世代への継承
- ◆ 幅広い分野・地域との連携による農林水産業や農山漁村の再生
- ◆ 国内外の新たな需要に即した農林水産業の実現

「ディスカバー農山漁村の宝」 グランプリ、優秀賞、特別賞について

平成26年度からスタートした「ディスカバー農山漁村の宝」は、第11回選定として、令和6年6月7日から約2か月間公募し、合計496件の応募の中から30件(27団体と3名)を選定しました。

また、選定された30件の中からさらにグランプリ、優秀賞(「ビジネス・イノベーション部門」2団体、「コミュニティ・地産地消部門」2団体、「個人部門」1名)及び特別賞(10団体)を決定しました。



ほっかいどうほろかないこうとうがっこう 北海道幌加内高等学校

北海道
ほろかないちよう
幌加内町

町民のそば打ち技術や伝統を継承した生徒は、全種協主催「そば道段位」の初段以上を全員が取得。平成14年から必修科目として「そば」の授業を新設。身につけた技術を活用し、全道各地のイベントにそば打ちの実演で参加、来場者に高い技能を披露。さらに、高校生が講師役をするそば打ち交流でも活かし、町内の小中学校とは継続的にそば打ちを通じた交流を推進。

P.15



かぶしきがいしゃ 株式会社エース・クリーン

北海道
きたみ
北見市

北海道林産試験場や帯広畜産大学、山形大学といった研究機関とともに、地方行政機関、地域木材を提供する木材業者、飼料消費者の畜産農家といった多角的な関係者とのチームにより未利用・低利用木材を活用した飼料の開発を推進。

P.13

特別賞

ほっかいどうしゃこたんちよう 北海道積丹町におけるブルーカーボン創出プロジェクト協議会

北海道
せきたんちよう
積丹町

海の森づくりとして藻場を食べ尽くすウニを除去し海藻の畑を作り、胞子を出すコンブを移植し、更にウニ剥き身後の殻を用いたコンブ用施肥材を設置するなどウニと藻場の循環型再生産による持続可能な漁業を実践。

P.14



ひろさきえんのう ひろさき援農プロジェクト

青森県
ひろさきし
弘前市

りんごが原料のシードルを製造するニッカウヰスキー(株)が令和2年度から、販売するアサヒビール(株)が令和4年度からりんご作業の援農ボランティアに従事。令和5年度の両社からの企業版ふるさと納税を財源に、両社と弘前市、(株)JTbによる官民連携の援農ツアーを実施。

P.16

特別賞

ぐんまけんりつおぜこうとうがっこう 群馬県立尾瀬高等学校

群馬県
おぜ
沼田・片品村

平成8年に群馬県が尾瀬ヶ原を中心とした周辺地域の自然環境をフィールドとした「自然環境科」を設置。その目的は「自然との共生」を担える人材育成と少子高齢化が進行する中山間地域の活性化。自然環境科におけるフィールドワーク中心の「探学的な学び」を受けたい子どもたちを全国各地から募集しており、その受け入れのために「尾瀬ハートフルホーム・システム」という地元家庭等へのホームステイ制度を整備している。

P.21



なかみ ひかり 中上 光

島根県
にしんじま
西ノ島町

故郷の海を活かした生活がしたいと考え、昭和53年にイタヤガイの養殖を始めたが、収入時期が限定的であるため、地元の海に生息していた大きな天然のイワガキに着目。平成4年に全国で初めてイワガキの完全養殖に成功。エサは隠岐海域の天然の植物プランクトンのみであり、海洋環境にも優しく、地域の資源を最大限に活用した産業となっている。

P.32

ロゴマーク



農村をイメージした「稲穂」と漁村をイメージした「海・波」、農山村をイメージした「山」をモチーフにしたデザイン。

[制作者：濱中 幸子 氏 (グラフィックデザイナー)]



えぬびーおーほうじん えすでいーじーず すばいらる
NPO法人 SDGs Spiral

農山漁村を守る活動に取り組む中で「山の問題は山で」、「海の問題は海で」と独立した課題として捉えられることが多い、課題を個々に捉えるのではなく、「山」と「海」の課題を包括的に捉え同時に解決・改善するため、子供と大人が楽しく学ぶことができる環境教育プロジェクトにより、環境の課題・資源の大切さ、地球に対して思いやりを育むことを推進。

福岡県
 北九州市
P.38



やま げんき きょうぎかい
80%山のまちを元気にする協議会

宿泊関係者、飲食関係者、体験提供者の12団体で協議会を設立し、観光資源の開拓・開発と来訪者の滞在時間を伸ばす「農泊」事業に取り組んでいる。八百津町の今につながる文化と歴史を体験型ワークショップにまとめ、長期滞在ツアーに詰め込んで提供する農泊実施体制を確立。舟運で栄えた歴史、八百津祭り、事業の発展など、ストーリーをつなぎ合わせ、それぞれの事業、取り組みに関連性を持たせて発信し、訪問者の興味を広げるきっかけとして活用。

岐阜県
 八百津町
P.26



よしえんぎむらきょうぎかい
吉縁起村協議会

村の有志による地域看板づくりから始まり、岡山県美作国創生公募提案事業の採択を皮切りに、農業者と非農業者が連携する農村RMOを組織して、農産品、特産品の開発・販売による収益確保と生活支援に向けたデジタル技術を導入。

岡山県
 真庭市
P.33



ほっかいどうしゃこたんちよう そうしやつ きょうぎかい
北海道積丹町におけるブルーカーボン創出プロジェクト協議会

海の森づくりとして藻場を食べ尽くすウニを除去し海藻の畑を作り、胞子を出すコンブを移植し、更にウニ剥き身後の殻を用いたコンブ用施肥材を設置するなどウニと藻場の循環型再生産による持続可能な漁業を実践。

北海道
 積丹町
P.14



はっとりうえんゆうげんがいしゃ
服部農園有限会社

農家が町のことを想い助けになることで、町の人が地域の農家を支えるという新しい都市型農業のあり方を考慮。平成30年に耕作放棄地を活用し約30aの農地にヒマワリを咲かせ、令和2年度からは周辺農家の農産物の販売を開始。農地のゴミ拾いや耕作放棄地に花を咲かせる活動、米作りや田んぼの生き物を学ぶ「田んぼの学校」など地域貢献活動を主催。

愛知県
 大口町
P.28



たいしやうまちいちばきやうどうくみあい
大正町市場協同組合

商店街の田中鮮魚店が選別をし、品質保証する代わりに売値を高くし魚価を上げて漁師を守る戦略をとり、町と連携し久礼の「鰹乃國」をブランド化。一本釣りの鰹は生食、加工、他漁の餌、農業用の堆肥など、久礼の地域内での有効活用に取り組む。冷凍鰹の外商強化、鮮魚店による小中学生への鰹の英才教育による人材育成、「カツオHANDBOOK」による情報発信なども行う。

高知県
 中土佐町
P.37



ゆうげんがいしゃ たまやせいめんじょ
有限会社 玉谷製麺所

東日本大震災を受け「世界でここでしか創れない食開発」を目標にかかげ、平成26年「雪結晶パスタ」を開発し、その後にお客様の声を反映したアートパスタの技術を構築。利用予定のないピーツペースト、摘果ラ・フランスなど廃棄していた素材や山形県産農産物を練込み、日本の四季や山形の産物、歴史文化を象ったストーリー性のあるアートパスタを製造し販売。

山形県
 西川町
P.19



こうどうがいしゃ
合同会社ねっか

酒米生産の農業と酒造業で通年雇用を生み出すため、米農家4名と醸造家1名で合同会社を設立。「日本酒」、「焼酎」の製造免許の新規交付が認められていない中、町の特産品である米を使用することで、福島県初の「特産品焼酎免許」を取得。JGAP認証の自社圃場で栽培した米を活用した米焼酎製造を中心としたアルコール飲料を製造。

福島県
 只見町
P.20



かぶしきがいしゃ のうえん
株式会社なかせ農園

家族経営として150年以上営農していたが、平成28年に発生した熊本地震で大きな被害を受け、施設が全半壊したことで、再建のため法人化。家業から事業へと転換するため、GLOBAL G.A.P.の認証を取得し、労働環境の安心安全と作業内容の見える化に注力。事業へと転換をする際に、地元支援学校から受け入れた職場実習生の人間性を見て、障がい者のイメージが変わり、福祉施設と連携して障がい者を雇用するとともに、産地の付加価値向上を実現。

熊本県
 大津町
P.39



ぐんまけんりつおぜこうとうがっこう
群馬県立尾瀬高等学校

平成8年に群馬県が尾瀬ヶ原を中心とした周辺地域の自然環境をフィールドとした「自然環境科」を設置。その目的は「自然との共生」を担える人材育成と少子高齢化が進行する中山間地域の活性化。自然環境科におけるフィールドワーク中心の「探究的な学び」を受けたい子どもたちを全国各地から募集しており、その受け入れのために「尾瀬ハートフルホーム・システム」という地元家庭等へのホームステイ制度を整備している。

群馬県
 沼田市・片品村
P.21

「ビジネス・イノベーション部門」選定団体 「個人部門」選定者
 「コミュニティ・産地消部門」選定団体

受賞体系



選定証授与式

第1部の様子

「ディスカバー農山漁村の宝」選定証授与式（第11回選定）を、令和6年12月17日に三田共用会議所（麻布十番）において開催し、特別賞の発表、有識者懇談会委員からの選定証授与を行いました。



特別賞の発表・授与

優秀賞（個人部門）



中上光

環境教育賞（あん・まくだなど委員）



NPO 法人 SDGs Spiral

農村 RMO 賞（今村司委員）



吉縁起村協議会

美しい景観の保全に資する取組賞（織作峰子委員）



服部農園有限公司

デザイン&アート賞（田中里沙委員）



有限会社 玉谷製麺所

人が輝くで賞（永島敏行委員）



株式会社なかせ農園

農泊賞（藤井大介委員）



80%山のまちを元気にする協議会

お宝食料・料理継承アタック賞（向笠千恵子委員）



大正町市場協同組合

楽しさ・想いが次世代につながる地域貢献賞（横石知二委員）



合同会社なっか

有識者懇談会委員からの選定証授与

グランプリ



北海道幌加内高等学校

優秀賞（ビジネス・イノベーション部門）



株式会社エース・クリーン

優秀賞（コミュニティ・産地地消部門）



ひろさき振農プロジェクト

優秀賞（ビジネス・イノベーション部門）
里山里海賞（三國清三委員）



北海道積丹町におけるブルーカーボン創出プロジェクト協議会

優秀賞（コミュニティ・産地地消部門）
パリ五輪に勝るとも劣らない活躍・ジュニア賞（林良博委員）



群馬県立尾瀬高等学校



選定証授与式

第2部の様子



交流会

「ディスカバー農山漁村の宝」第11回選定関係者は、令和7年1月7日に総理大臣官邸において、内閣総理大臣、内閣官房長官、農林水産大臣、地方創生担当大臣からの直接の激励を受けるとともに、関係者同士の交流を行いました。



交流会



石破内閣総理大臣からの祝辞



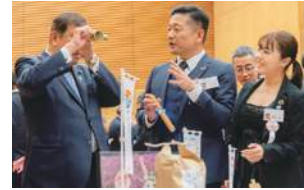
江藤農林水産大臣からの祝辞



石破内閣総理大臣と
グランプリ受賞者の記念撮影



伊東内閣府特命担当大臣からの祝辞



政務・有識者懇談会委員との交流



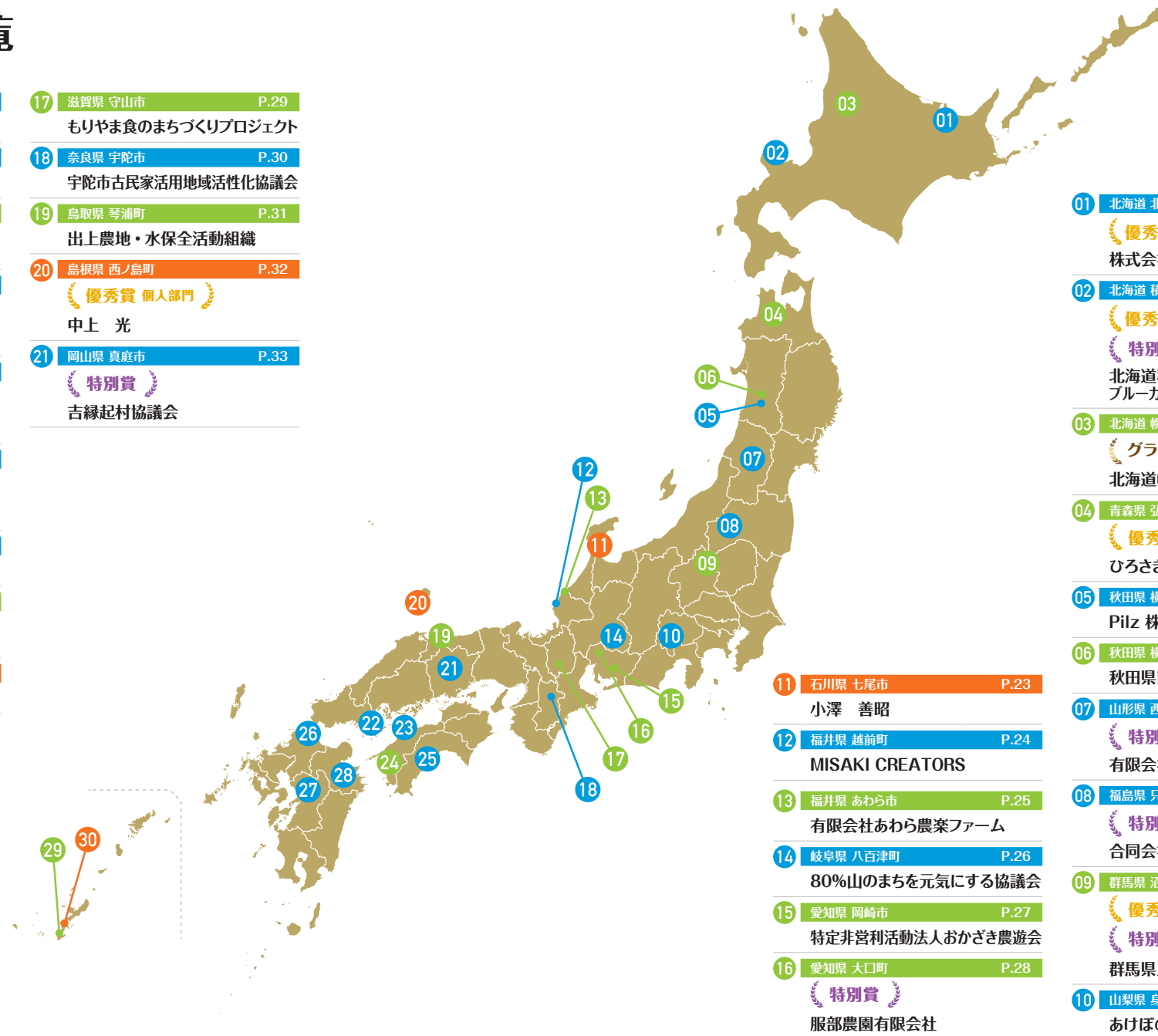
「ディスカバー農山漁村の宝」(第11回選定)

選定地区等一覧

- 22 山口県 岩国市 P.34
株式会社神東ファーム
- 23 愛媛県 松山市 P.35
きりめき
- 24 愛媛県 宇和島市 P.36
愛媛県立北宇和高等学校
三間分校地域情報ビジネス部
- 25 高知県 中土佐町 P.37
特別賞
大正町市場協同組合
- 26 福岡県 北九州市 P.38
特別賞
NPO 法人 SDGs Spiral
- 27 熊本県 大津町 P.39
特別賞
株式会社なかせ農園
- 28 大分県 豊後大野市 P.40
株式会社豊後大野クラスター
- 29 沖縄県 糸満市 P.41
糸満市地域農地・水・環境保全
管理協定運営委員会
- 30 沖縄県 読谷村 P.42
島袋 みさえ

- 17 滋賀県 守山市 P.29
もりやま食のまちづくりプロジェクト
- 18 奈良県 宇陀市 P.30
宇陀市古民家活用地域活性化協議会
- 19 鳥取県 琴浦町 P.31
出上農地・水保全活動組織
- 20 島根県 西ノ島町 P.32
優秀賞 個人部門
中上 光
- 21 岡山県 真庭市 P.33
特別賞
吉縁起村協議会

「ビジネス・イノベーション部門」選定団体
「コミュニティ・地産地消部門」選定団体
「個人部門」選定者



- 11 石川県 七尾市 P.23
小澤 善昭
- 12 福井県 越前町 P.24
MISAKI CREATORS
- 13 福井県 あわら市 P.25
有限会社あわら農楽ファーム
- 14 岐阜県 八百津町 P.26
80%山のまちを元気にする協議会
- 15 愛知県 岡崎市 P.27
特定非営利活動法人おかさき農遊会
- 16 愛知県 大口町 P.28
特別賞
服部農園有限会社

- 01 北海道 北見市 P.13
優秀賞 ビジネス・イノベーション部門
株式会社エース・クリーン
- 02 北海道 積丹町 P.14
優秀賞 ビジネス・イノベーション部門
特別賞
北海道積丹町における
ブルーカーボン創出プロジェクト協議会
- 03 北海道 幌加内町 P.15
グランプリ
北海道幌加内高等学校
- 04 青森県 弘前市 P.16
優秀賞 コミュニティ・地産地消部門
ひろさき援農プロジェクト
- 05 秋田県 横手市 P.17
Pilz 株式会社
- 06 秋田県 横手市 P.18
秋田県南旭川水系土地改良区
- 07 山形県 西川町 P.19
特別賞
有限会社 玉谷製麺所
- 08 福島県 只見町 P.20
特別賞
合同会社ねっか
- 09 群馬県 沼田市・片品村 P.21
優秀賞 コミュニティ・地産地消部門
特別賞
群馬県立尾瀬高等学校
- 10 山梨県 身延町 P.22
あけぼの農園株式会社

01 木から牛のエサを作るみらいプロジェクト

かぶ しき がい しゃ

株式会社 エース・クリーン



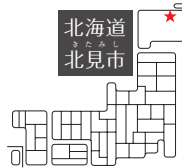
木質飼料キャトルエース

ビジネス・イノベーション部門

農業

林業

地産地消



〒090-0001 北海道北見市小泉
761-12

tel 0157-22-0700

fax 0157-22-0730

mail m-inagawa@a-clean.co.jp



農場での給餌状況



自動包装施設

概要

- ◆ 国際情勢の変化や気候変動の煽りをうけ、輸入に大きく依存している家畜飼料価格の高騰が続いている。また、牛のゲップ由来のメタンガス排出問題も大きな社会課題となっている。
- ◆ 北海道林産試験場や帯広畜産大学、山形大学といった研究機関とともに、地方行政機関、地域木材を提供する木材業者、飼料消費者の畜産農家といった多角的な関係者とのチームにより未利用・低利用木材を活用した飼料の開発を推進。

成果

- ◆ 輸入飼料の高騰や環境への意識の高まりなどで畜産業界への風当たりが強まる中、木質飼料の高い機能性（メタン産生低減）も相まって開始当初数件だった顧客が、令和5年には150件に増加。
- ◆ 高温高圧の水蒸気で加工する「蒸煮」という技術メリットを最大限に生かし、原材料は木と水だけながら飼料としての高い嗜好性と機能性、ユーザーの利便性を追求・実現したことで、発売当初（平成30年）135tだった販売出荷量は令和5年には約3,000tで売上は1.7億円に増加。

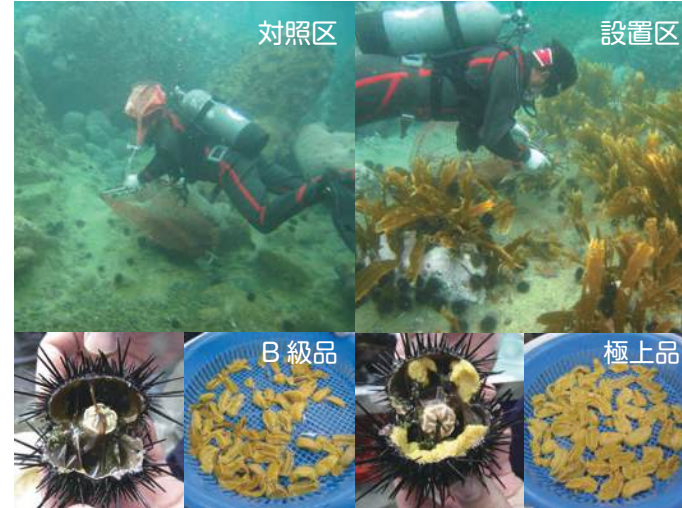


詳細は団体のHPから

02 ウニから始まる SDGs

ほっかいどうしゃこたんちょう

北海道積丹町における ブルーカーボン創出プロジェクト協議会



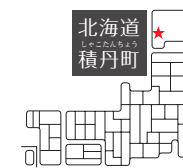
藻場の再生～左：磯焼け漁場 右：再生藻場

ビジネス・イノベーション部門

水産業

環境保全

その他（水産畜産連携）



〒046-0201 北海道積丹郡積丹町
大字美国町字船瀬48番地5

積丹町役場農林水産課

tel 0135-44-3382

fax 0135-44-2125

mail nourin@town.shakotan.lg.jp



ウニ殻を活用したコンブ用肥料の開発



畜産との連携～コンブを餌としたコンブ羊

概要

- ◆ 気象変動の影響もあり、「磯焼け」の拡大でウニの餌となる藻場が減少、漁獲量も徐々に減少。
- ◆ 海の森づくりとして藻場を食べ尽くすウニを除去し海藻の畑を作り、胞子を出すコンブを移植し、更にウニ剥き身後の殻を用いたコンブ用施肥材を設置するなどウニと藻場の循環型再生産による持続可能な漁業を実現。

成果

- ◆ 平成21年から活動を実施し、令和5年度では1.45haのコンブ群落を再生。また、平成27年から「海中籠肥育」や「陸上畜養」による飼育技術の開発を行い、出漁が不可能な日でもウニを安定供給できる技術を確立。
- ◆ 造成された藻場ではウニ剥き身量は1.48倍となり、販売額約3,550万円の増加。再生藻場によるCO²吸収量はブルーカーボンクレジットとして取引を開始。
- ◆ 畜産との連携として町内の農業法人が飼育する羊の餌に養殖コンブを与えたところ、肉質の向上につながり積丹町の名産品となる。



詳細は団体のHPから

03 そばを通して地域とつながり、世界へ羽ばたく

ほっかいどうほろかないこうとうがっこう 北海道幌加内高等学校



地域の方の指導も受け、段位取得を目指す

- コミュニティ・地産地消部門
- 伝統の継承
- 食育・教育
- 学生・若者の活躍



〒074-0495 北海道雨竜郡幌加内町字平和
tel 0165-35-2405
fax 0165-35-3477
mail horokou-hs@bz04.plala.or.jp



新そば祭り



令和4年度には全国大会4連覇達成

概要

- ◆ 冬期間の気候の厳しさや多雪、酷暑と天候に左右される農業経営の難しさ、都市への流出により急激に人口減少。作付面積日本一の「そばの町」のそば打ち技術や伝統継承が課題。
- ◆ 平成14年から必修科目として「そば」の授業を新設。身につけた技術を活用し、全国各地のイベントにそば打ちの実演で参加、来場者に高い技術を披露。さらに、高校生が講師役をするそば打ち交流でも活かし、町内の小中学校とは継続的にそば打ちを通じた交流を推進。

成果

- ◆ 町民のそば打ち技術や伝統を継承した生徒は、全種協主催「そば道段位」の初段以上を全員が取得。部活動の「そば局」は全国高校生そば打ち選手権団体戦では過去4連覇を含む7回優勝。高い技術を持った生徒は卒業後にそば打ちを武器に活躍する事も多く、国内だけでなく海外でもそば職人として働き、幌加内町の観光資源である「そば」の素晴らしさを世界へと発信。
- ◆ 例年9月上旬に行われる幌加内町最大のイベント「新そば祭り」では、手打ちそばを2,000食以上販売、町内の小中学校や海外とのそば打ち交流のほか、地域と関わる機会も多く人口減少の課題にも町民と一緒に取り組むなど地域に欠かせない存在となっている。



詳細は団体のHPから

04 りんご産業を軸とした官民共創の輪

えんのう ひろさき援農プロジェクト



ツアー参加者がりんご収穫に動かし様子

- コミュニティ・地産地消部門
- 農業
- 企業との連携
- 関係人口の創出



〒036-0121 青森県弘前市大字上白銀町1-1
青森県弘前市農林部農政課地域経営係
tel 0172-40-7102 (直通)
fax 0172-32-3432
mail nousei@city.hirosaki.lg.jp



企業版ふるさと納税寄附感謝状贈呈式



ボランティア終了後の集合写真

概要

- ◆ 日本一のりんご産地であるが、農業従事者の減少や高齢化といった問題があり、りんご産業の活性化及び関係人口の増加が課題。
- ◆ りんごが原料のシードルを製造するニッカウキスキー(株)が令和2年度から、販売するアサヒビール(株)が令和4年度からりんご作業の援農ボランティアに従事。令和5年度の両社からの企業版ふるさと納税を財源に、両社と弘前市、(株)JTBIによる官民連携の援農ツアーを実施。

成果

- ◆ 援農ボランティアを受け入れた29戸のりんご生産者からは本事業へ参加して良かったとの声が届くとともに、ツアー後に参加者から弘前市へふるさと納税が寄附されるなど関係人口の増加にも寄与。持続可能な活動への仕掛けのため、労働力不足の解消の取組として企業を認定する「ひろさき緑農サポーター認定制度」の創設に繋がった。
- ◆ ボランティア282名の参加により人手不足に悩むりんご生産者の負担が軽減されたほか、約170名の参加者が宿泊したことなどで農を起点として宿泊飲食業など観光振興や経済波及効果に貢献。



詳細は団体のHPから

05 【農業×昆虫×福祉】新たな価値の創造

びるつかぶしきがいしや
PILZ 株式会社



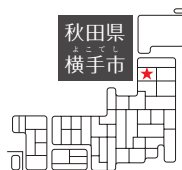
椎茸生産の様子

ビジネス・イノベーション部門

農業

農福連携

食料安全保障強化



〒019-0508 秋田県横手市十文字町十五野新田字明神東58-2

tel 0182-24-1622

fax 0182-23-6533

mail hatake7788@yahoo.co.jp



羽化中のヘラクレスオオカブトムシ



多肉植物育成現場の様子

概要

- ◆ 椎茸生産後の菌床ブロックの廃棄物処理問題。
- ◆ 令和3年に「秋田のしいたけ販売三冠王獲得事業」を利用し、椎茸の一環生産のできる施設を整備し、椎茸の生産を開始。椎茸収穫後の菌床ブロックの廃棄を事業者に依頼していたが、廃棄された菌床の山からカブトムシの幼虫を発見したこと、また、その菌床の山には草が勢いよく生い茂っていることに気が付き、廃菌床をカブトムシ飼育に使い、カブトムシの糞を野菜の肥料に使う廃資源を有効に循環させる取組みを開始。

成果

- ◆ 日本一美味しい椎茸づくりを目指し、菌床製造から一貫して椎茸を生産。菌床の材料には秋田県内の広葉樹のみを使用し、地下からくみ上げる深層水を用いて徹底した温度・湿度管理を実施し、秋田県知事賞を表彰されるなど高品質な椎茸となり、椎茸、菌床ブロック等の販売額は事業開始後3年間で1.4億円に増加。
- ◆ 自社及び近隣椎茸農家で廃棄していた菌床を、独自のプロセスでカブトムシ幼虫の餌に再加工し、販売するとともに、自社で飼育したヘラクレスオオカブトを販売、横手市のふるさと納税返礼品としても採用。

詳細は団体のHPから



06 地域保全から学ぶ 学校教育のすがた

あきたけんなんあさひかわすいけい
秋田県南旭川水系
とちかいいりょうく
土地改良区



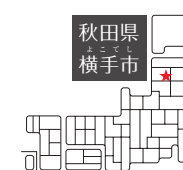
新一の堰頭首見見学

コミュニティ・地産地消部門

農業

教育機関との連携

農村環境・景観保全



〒013-0060 秋田県横手市条里一丁目1番70号

tel 0182-33-7200

fax 0182-33-7270

mail minamiasahikawa@asasui.jp



全校児童によるプランターへの植栽



泥んこドッジボール

概要

- ◆ 都市化・混住化が進み、地域の農業や歴史ある農業水利施設の保全が課題。
- ◆ 地域住民に対して、土地改良施設や農業への理解の醸成が必要不可欠と考え、地域との関わりについて模索。地元小学校を対象として農業への理解醸成に取組むことで、10年先20年先の将来に繋がる活動が出来ること大いに期待し、平成16年より小学生を中心とした施設体験学習等スタート。

成果

- ◆ 管内2つの小学校児童を対象にダム～頭首工～水路を見て回る施設体験学習会を開催し、毎年100名を超える児童が参加。国営事業所との連携により、水資源の大切さ、農業水利施設の役割、地域と水の関わり、用水路への転落防止などの普及啓発を行い、理解の拡大。
- ◆ 長年にわたり小学生の学校農園、植栽、田植、稲刈り、地域の郷土食である横手焼きそばを身近に感じてもらう取組として焼きそばに入れるキャベツの栽培など農業体験を行っている。参加者は少しずつ増えてきており、令和5年度には2,629名が参加。

07 山形で採れる食材をフル活用して全世界へ

ゆうげんがいしゃ たまやせいめんじょ
有限会社 玉谷製麺所



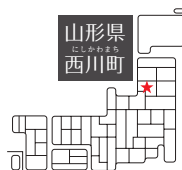
ビーツの生産者さんと一緒に

ビジネス・イノベーション部門

輸出

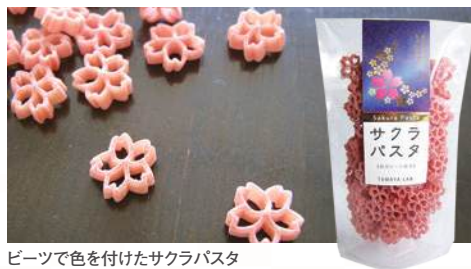
地産地消

伝統の継承



〒990-0701 山形県西村山郡西川町睦合甲242

tel 0237-74-2817
 fax 0237-74-2598
 mail webmaster@tamayaseimen.co.jp



ビーツで色を付けたサクラパスタ



天童市の摘果ラ・フランスを入れた将棋駒パスタ

概要

- ◆ 持続可能な農業を応援するために、本来市場に出回らない農作物の利用が重要。
- ◆ 東日本大震災を受け「世界でここでしか創れない食開発」を目標にかかげ、平成26年「雪結晶パスタ」を開発し、その後お客様の声を反映したアートパスタの技術を構築。利用予定のないビーツペースト、摘果ラ・フランスなど廃棄していた素材や山形県産農産物を練込み、日本の四季や山形の産物、歴史文化を象ったストーリー性のあるアートパスタを製造し販売。

成果

- ◆ 平成27年に野菜のビーツで桜色に染めた「サクラパスタ」を開発したことで、不揃いなビーツの利用につながり、ビーツの作付面積が2倍に増加。このサクラパスタを筆頭に世界15カ国まで輸出が拡大。
- ◆ 令和3年に開発した「将棋駒パスタ」は、本来廃棄されていた「摘果ラ・フランス」を利活用。130万円の農家の副収入につながったことで、営農意欲が向上し、農家を続けたいとの声も聞かれるようになる。ラ・フランス風味でポリフェノール、GABAの有意義な成分が含まれたパスタは将棋界の盛り上がりとともに販売が増え、令和5年度は15,000袋販売。



詳細は団体のHPから

08 「楽しいを形にし、想いを次世代につなぐ」

ごうどうがいしゃ
合同会社ねっか



ノンプラスチック肥料での田植え

ビジネス・イノベーション部門

農業

6次産業化

雇用



〒968-0603 福島県南会津郡只見町大字梁取字沖998

tel 0241-72-8872
 fax 0241-72-8886
 mail info@neka.jp



18歳の酒プロジェクト



ロンドンでの試飲会

概要

- ◆ 只見町は東京都23区と同じ面積を有しながら、人口が3,500人で高齢化率が49%と、少子高齢化が進んでいるため、耕作放棄地の増加が課題。
- ◆ 酒米生産の農業と酒造業で通年雇用を生み出すため、米農家4名と醸造家1名で合同会社を設立。「日本酒」、「焼酎」の製造免許の新規交付が認められていない中、町の特産品である米を使用することで、福島県初の「特産品焼酎免許」を取得。JGAP 認証の自社農場で栽培した米を活用した米焼酎製造を中心としたアルコール飲料を製造。

成果

- ◆ 吟醸香の香り高い米焼酎の製造に成功し、国内外で数多くの賞を受賞。令和3年に、国内第1号となる「輸出用清酒製造免許」を取得し、香港をメインに販売開始。毎年順調に販売実績を伸ばし、令和5年度には8,600万円を売上。
- ◆ 酒造業により冬期間の雇用が生まれ、冬期の作業がない農業と併せての通年雇用ができたことから、マルチワークを支援する只見働き隊事業協同組合を含めて、UIターン者9名の雇用を創出。



詳細は団体のHPから

09 自然と共生できる人づくりが地域を支える!

ぐんまけんりつ
群馬県立
おぜこうとうがっこう
尾瀬高等学校



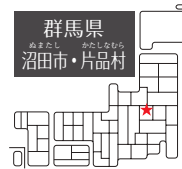
環境省との連携によるシカ防柵設置

コミュニティ・地産地消部門

環境保全

学生・若者の活躍

関係人口の創出



〒378-0301 群馬県沼田市利根町平川1406

tel 0278-56-2310

fax 0278-56-3720

mail oze-hs@edu-g.gsn.ed.jp



シラネアオイ移植作業



地域との交流 道の駅尾瀬かたしな

概要

- ◆ 平成8年に群馬県が尾瀬ヶ原を中心とした周辺地域の自然環境をフィールドとした「自然環境科」を設置。その目的は「自然との共生」を担える人材育成と少子高齢化が進行する中山間地域の活性化。
- ◆ 自然環境科におけるフィールドワーク中心の「探究的な学び」を受けた子どもたちを全国各地から募集しており、その受け入れのために「尾瀬ハートフルホーム・システム」という地元家庭等へのホームステイ制度を整備している。

成果

- ◆ 地元団体との協働によるシラネアオイ保護活動を30年以上にわたり実施しているほか、水芭蕉の栽培・移植を行う「水芭蕉プロジェクト」には地元企業と連携し、100名以上が参加。「自然との共生」を目指す人づくりを通して、机上の学びでは得にくい非認知能力が向上。
- ◆ 高校生の柔軟なアイデアと実践活動が地域に活力を与え、卒業生の多くが地元のために活躍。
- ◆ 「尾瀬ハートフルホーム・システム」により毎年10名前後の生徒が全国各地から入学。生徒とその家族にとり、本地域が「第2のふるさと」となり関係人口の創出に貢献。

詳細は団体のHPから



10 日本一の枝豆・大豆を山梨県身延町から!

のうえんかぶしきがいしゃ
あけぼの農園株式会社



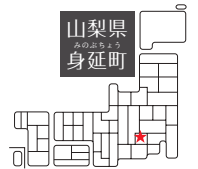
あけぼの大豆 枝豆収穫の様子

ビジネス・イノベーション部門

農業

6次産業化

雇用



〒409-3432 山梨県南巨摩郡身延町伊沼250

tel 0556-42-7015

mail info@akebonodaizu.net



EU 農業委員会 視察受け入れの様子



AI 選別の様子

概要

- ◆ 長年、身延町内で栽培されてきた大豆は高品質であるが、知名度が低かった。
- ◆ ブランド大豆として「あけぼの大豆」を世に広めるため、令和3年に法人を設立、「身延町あけぼの大豆拠点施設」の指定管理者となり、6次産業化による自社で生産した無添加の加工品を製造販売し、あけぼの大豆を普及推進。

成果

- ◆ 令和4年にGI商品として登録し、生産作付面積は令和元年度の130aから令和5年度には約2倍の280aに増加し、売上は3,000万円に増加。小学校や高校、大学、福祉施設、プロサッカーチームなどと農業分野で連携を図るほか、三越、伊勢丹、大丸、JR東日本など大手取引先を開拓し、あけぼの大豆の魅力を伝える。
- ◆ あけぼの大豆を利用した「あけぼの大豆味噌」はふるさと納税の返礼品としてトップクラスの人気を誇り、「しっとり焼き大豆」、「枝豆ジャンボショウマイ」はグルメ関係の表彰を受けるなど高評価を受ける。

詳細は団体のHPから



11 能登里山里海総合コーディネーターを目指す

おざわ よしあき
小澤 善昭



タイ・バンコクでの農作業の様子



カンボジアの田植直後の水田の様子



能登でのひゃくまん穀の稲刈り中



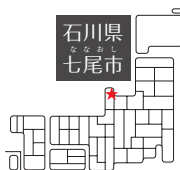
能登での農作業中の本人

個人部門

農業

復興

多様な分野との連携



〒926-0031 石川県七尾市古府町ワ部39番地
農業家／脳考家／能登の匠／能登の伝道師
tel 090-7630-2562
mail ozawayoshiaki19761223@gmail.com

概要

- ◆ 能登地方における地域振興や活性化が課題。現在は震災後の復旧・復興を目指す。
- ◆ 11年前にシステムエンジニアを退職し、新規就農。4年前よりSNSにおいて日々の活動や能登の情報発信を本格開始、前職システムエンジニアの経歴を活用し農業とIT / ICTとのイノベーションの可能性を模索、タイやカンボジアとの交流を行うほか、小規模水稻農家の持続可能性や農業の栽培技術やノウハウ等の論文化を模索するため、多様な者とのつながりを構築している。

成果

- ◆ 国内お米の各種コンテストに積極的に出品し、複数の表彰を受賞するなど、能登の水稻農家として評価されたほか、Facebookによる投稿は年間400～500回行い、能登の水稻農家としての認知度も向上。
- ◆ 東南アジアにおけるビジネスの展開をするため、タイやカンボジアとの交流を行い、営農指導や情報交換を行っている。

団体の Facebook はこちらから



12 越前水仙 みんなの力で100万本再生!

みさき くりえい たーず
MISAKI CREATORS



海を一望する畑で草刈り



RUCK の公式戦で行われた応援水仙 PR イベント



圃場を整備する学生たち

ビジネス・イノベーション部門

農業

多様な分野との連携

その他(トキ・イ消費型の新しい市場の開拓)



〒916-0301 福井県丹生郡越前町梨子ヶ平28-2-2 棚田水仙館内
岬クリエイターズ
(運営) 株式会社 Ex SATOYAMA
tel 080-2958-1197
mail misaki.jiman@gmail.com

概要

- ◆ 福井県花の越前水仙は、過疎高齢化による担い手不足やシカの食害により生産量が大きく減少。
- ◆ 地元集落や自治体、福井県立大学地域経済研究所と連携して資源の未来に可能性を求める人や企業を結集するプロジェクトとして「MISAKI 未来農園」を設立。MISAKI CREATORS が人や企業のプラットフォームとなり維持管理が困難になった水仙畑の生産を代行したり、獣害や長年の放棄で荒れた状態から再生を行う。

成果

- ◆ 令和5年の冬は越前水仙の花弁市場への出荷が1万5,000本を突破し、産地全体の2%を底上げ。シカの食害にあう球根の増殖を獣害リスクのない県内平野部の大学で学生が行うなど、長年の課題を既存の枠組みにとらわれない新しい力が融合して解決しながら前進している。
- ◆ 試行から参加している県内企業は水仙畑の整備に社員を挙げて作業を推進。福井に支店を置く上場企業社員のボランティア参加、フットサル女子日本リーグのチームの水仙柄ユニフォームなど多様な分野との連携を強化。

詳細は団体の HP から



13 スマート農業による農福連携で SDGs(ノーマライゼーション) の実現

ゆうげんがいしゃ

有限会社

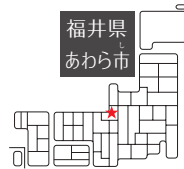
のうがく

あわら農楽ファーム



農福連携によるスマート農業

- コミュニティ・地産地消部門
- スマート農林水産業
- 農福連携
- 関係人口の創出



〒919-0601 福井県あわら市山室72-101
 tel 0776-73-5955
 fax 0776-73-5477
 mail info@awara-nougaku.jp



刈払い機労働安全衛生教育研修



農福連携で生産した主なノウハウ商品

概要

- ◆「高齢化・後継者不足となっている地域農業の担い手」と「療育の一環として障がい者に農業を通じて働く場」が必要。
- ◆平成13年に会社を設立し、施設外就労で障がい者を受け入れ農福連携に取り組む。全国に先駆けGPSを活用したスマート農業を導入、令和4年からは農業試験場とロボット田植え機、アシスト付きコンバインの実証試験を行う。

成果

- ◆スマート農業等で農業に科学的な視点を積極的に導入し、高品質で安心な「農産物」、「生産工程」の安全性が高まり、GH評価905点のリスク削減となる。実証試験では、熟練オペレーターとの作業時間は10a当たり4～6分の差があったものの障がい者の自信や意欲の向上及び新規農業者が参入しやすい環境づくりに寄与。また、農福連携、情報通信技術(KSAS)の活用、国内肥料資源を活用した特別栽培農産物等で食料の安定供給及び自然環境にやさしい農業等のSDGsに取組。
- ◆農産物等は病院、福祉施設、外食事業者や量販店、ふるさと納税等で高い評価を得て完売し、年間売上は1.9億円。施設外就労の受け入れ人数は令和5年度には12人に増加、過去10年間で一般就労に移行したのは5人と障がい者の安定的な就労先として貢献。

詳細は団体のHPから

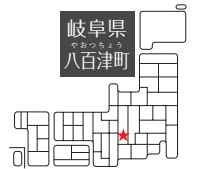


14 大自然に育まれた八百津「あるべき姿」を考える

80%山のまちを
元気にする協議会



- ビジネス・イノベーション部門
- 農泊
- 農村文化体験
- 農村環境・景観保全



〒505-0301 岐阜県加茂郡八百津町八百津 3607-8
 (運営事務局) 株式会社POUSSE
 tel 0574-40-5980
 mob 090-2922-8959
 mail t_muto@pousse-design.com



藤ツルの活用と山の祭りを知る体験



地酒体験イベント地酒試飲体験



簡易製材機を使用した、製材・木工体験

概要

- ◆人口減少により存続の危機に瀕する祭りの保存活動、かつて生活道として使用されていたが放置されている古道の整備など、自然環境、歴史・文化の保存が課題。
- ◆宿泊関係者、飲食関係者、体験提供者の12団体で協議会を設立し、観光資源の開拓・開発と来訪者の滞在時間を伸ばす「農泊」事業に取り組んでいる。八百津町の今につながる文化と歴史を体験型ワークショップにまとめ、長期滞在ツアーに詰め込んで提供する農泊実施体制を確立。舟運で栄えた歴史、八百津祭り、事業の発展など、ストーリーをつなぎ合わせ、それぞれの事業、取り組みに関連性を持たせて発信し、訪問者の興味を広げるときっかけとして活用。

成果

- ◆木工体験、地酒などテーマごとの専門家による体験イベント、地元住民による町内ガイドツアーにより、地元住民との触れ合うことで参加者に地元の空気感が伝わり、なつかしくて新しい「山と共に生きる八百津の暮らし」のファンとなり、関係人口の増加につながっている。
- ◆事業開始から2年目で宿泊者は1,038人、宿泊等の売上は1,316万円と順調に伸びている。

詳細は団体のHPから



15 荒地は人の心を荒廃させる めざせ! 菜園都市

とくていひえいりかつどうほうじん

特定非営利活動法人 おかざき農遊会

のうゆうかい



苗の植え付け共同作業

コミュニティ・地産地消部門

荒廃農地対策

食育・教育

関係人口の創出



〒444-2149 愛知県岡崎市細川町字鳥ヶ根17-22

tel 0564-45-5870

fax 0564-45-5870

mail ma1.wata5@xj.commufa.jp



定期的に開かれる朝市での販売風景



サツマイモの収穫体験

概要

- ◆ 増え続ける耕作放棄地の解消が課題。
- ◆ 「楽しく、愉しく」をモットーに、世の中のために良いことをしているという満足感が会員のボランティア活動を支えている。NPO法人化により人員、組織を強化するとともに、自力による耕作放棄地の解消に止まらず、幅広い市民活動にするため「菜園都市おかざき」を掲げ、野菜づくりの楽しさを伝える活動を強化。

成果

- ◆ 令和6年現在、耕作放棄地再生を中心に耕作農地面積を約14haまで拡大、これらの農地で栽培する生鮮野菜を定期開催する朝市や産直などを通じ安価に市民に提供を行っている。朝市を行うことによって、さらに多くの野菜を作る=耕作農地の拡大と良い流れになっている。
- ◆ 平成27年から市民農園の拡大に力を入れ、市内に5カ所で103区画の市民農園を運営する。
- ◆ 食農教育としての野菜の栽培体験、収穫体験に年間延べ9000名に参加いただくなど、各種事業の拡大により、平成28年以降は補助金に依存しない財政自立化を達成。

詳細は団体のHPから



16 新・地域循環! 町と人と農業のいい関係

はつどりのうえんゆうげんがいしゃ

服部農園有限公司



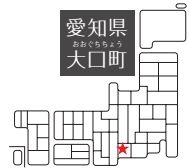
ゴミ拾い活動

コミュニティ・地産地消部門

都市農業

地産地消

荒廃農地対策



〒480-0125 愛知県丹羽郡大口外坪3-158

tel 0587-81-6688

fax 0587-50-5767

mail Info-hrm@hattorinouen.jp



田んぼの学校 2023・収穫体験



耕作放棄地のヒマワリ畑

概要

- ◆ 平成29年、都市化に伴う農地の大規模転用により、経営受託面積の約17%にあたる15haの優良農地を失い、翌年には5haを失い、町から「農業」という産業が無くなるのではないか?と危機感。
- ◆ 農家が町のことを想い助けになることで、町の人々が地域の農家を支えるという新しい都市型農業のあり方を考慮。平成30年に耕作放棄地を活用し約30aの農地にヒマワリを咲かせ、令和2年度からは周辺農家の農産物の販売を開始。農地のゴミ拾いや耕作放棄地に花を咲かせる活動、米作りや田んぼの生き物を学ぶ「田んぼの学校」など地域貢献活動を主催。

成果

- ◆ 直売所の売上のほとんどは米によるものであるが年々増加し、令和5年度の米と加工品(おにぎり)を中心に6,077万円を売上げるなど4年間で2.4倍に増加。主食用米の約70%は地域の一般客や飲食店が買い支え、地域農業を支援。
- ◆ 地域貢献活動への参加は社員にとって「地域に必要とされている」という自己重要感が増し、離職率の低下につながった。ゴミ拾い参加を契機に企業と研究や交流事業が始まるなど、地域を巻き込みながら進めてきた結果、農家が町を応援し、町が農家を応援する形を構築。

詳細は団体のHPから



17 「食」と「農水」をテーマに地域活性化を図る。

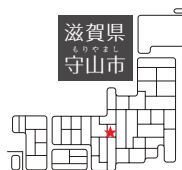
もりやま食の まちづくりプロジェクト



パール野菜 ブロッコリー収穫体験

コミュニティ・地産地消部門

- 地産地消
- 伝統の継承
- 食育・教育



〒524-8585 滋賀県守山市吉身二丁目5番22号
(守山市役所 農政課内)
tel 077-582-1130
fax 077-582-6947
mail nosei@city.moriyama.lj.jp



パール野菜給食



もりやまびわ湖パール



- ◆ 年間1,000名程の人口増加が続き、特に子育て世代から「安全・安心」な農水産物を食べさせたいニーズがあった。また、食の安全を脅かす出来事、生活習慣病による健康不安等が増加。
- ◆ 食と農水産物を中心とした「もりやま食のまちづくりプロジェクト」を立ち上げ、「新鮮な農水産物の地産地消」、「次世代を担う新たなブランド化の推進」などの活動を行う。地区で養殖している淡水真珠の貝殻をパール灰として肥料に使用し、生産した野菜を「もりやまびわ湖パール野菜」としてブランド化に成功。



- ◆ 令和5年度には、パール灰を利用した野菜の品目数は10種類で、生産量は5tと毎年増加している。また、地産地消の推進として市内学校給食への納入量も増加し、令和5年度の給食出荷金額は178万円の売上となり、子供たちに安全安心な野菜を提供している。
- ◆ 産業廃棄物だった貝殻を燃焼処理して肥料と使用することで、環境循環型農法としてSDGsの取組に準じていることから新たな販路を開拓。また、漁業と農業が織りなす「琵琶湖システム」として取り組む本地域においてパール灰の使用で農業者の琵琶湖漁業への理解が深まった。

18 あなたの中にある、なつかしい未来へ。

宇陀市古民家活用 地域活性化協議会



名所を巡る e-bike ツアー

ビジネス・イノベーション部門

- 農業
- 6次産業化
- 伝統の継承



〒633-0216 奈良県宇陀市榛原八滝1835
tel 0745-85-3650
fax 0745-85-3651



商品試飲食・販売会



農園体験イベント



- ◆ 過疎高齢化等により空き家が増加。
- ◆ 空き家の目立つ「八滝地区」において産官民の賛同者を募り、地域住民、地元の民宿、飲食店、観光農園、古民家再生協会の参画で活動を開始。「農山村滞在型旅行」を受け入れ、里山の自然を中心としたサステナブルな地域社会での滞在を提供するオーベルジュ「うだ薬湯の宿 やたきや」を開業。クラウドファンディングなども活用し、建物周辺のランドスケープを整備。



- ◆ 「オール宇陀」をテーマとして、やたきやの従業員等は全て宇陀市出身者など宇陀と所縁のある方を採用、やたきやで提供する食材も宇陀市内で調達できるものを取り揃えるなど、地域の雇用創出や経済効果を生み出し、令和5年度には741人の宿泊者、4,800人の来場者が訪れる。
- ◆ 令和4年度から地域資源を観光コンテンツとして活用した商品の開発に着手。10種類近くのオリジナル商品を開発し、自社サイトやECと併せて道の駅やカフェなどと連携しながら販売。販売個数は3,000個を超える。

詳細は団体のHPから



19 次世代につなげ、明るい地域を目指して

い で か み の う ち 出上農地・ み ず ほ ぜ ん か つ ど う そ し き 水保全活動組織



農村文化の伝承(田植え)



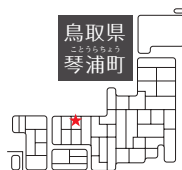
田んぼダム(せき板・のぼり設置)



軽トラ水族館(生き物観察)

コミュニティ・地産地消部門

- 伝統の継承
- 教育機関との連携
- 食育・教育



〒689-2511 鳥取県東伯郡琴浦町出上230-1
事務局(琴浦町立赤碕文化センター内)
tel 0858-55-0741
fax 0858-55-0741
mail akasaki-bunka@town.kotoura.tottori.jp

概要

- 過去に幾度となく氾濫している勝田川が流れている本地区において、農業者の高齢化や水路など農業施設の老朽化が進む。過去に小作争議の舞台だったことから人と農地が重要な土地柄。
- 平成24年から多面的機能支払交付金を活用し、地域一帯での共同活動に取り組み、地域の持続性と活性化を目指し、活動している。また、流域治水対策として、令和3年から地区内の田んぼに自作の排水調整版(せき板)を設置し、雨水貯留機能の強化(田んぼダム)に取り組んでいる。

成果

- 田んぼダムの取組は令和3年度から開始し、令和5年度には31haで実施。また、親子で水路の生き物観察をする軽トラ水族館の開催、地元小学校と連携した田植え体験など農業体験や農業関連行事の伝承により、農村コミュニティの強化につながった。
- 当地区で毎月開催される「地域食堂」に野菜や米などを提供。「地域食堂」には、子どもから高齢者まで年齢を問わず、多くの地域住民が参加しており、食育活動を通じて、孤立や孤食を防ぎ、多世代が集う「みんなの居場所」に貢献。

20 隠岐の豊かな海で育む『隠岐のいわがき』

な が み ひかり 中上 光



- 個人部門
- 水産業
- 雇用
- その他(地域資源の活用、所得雇用の増大)



〒684-0211 島根県隠岐郡西ノ島町大字浦郷3534
JFしまね浦郷支所所属
tel 080-1914-3014
fax 08514-6-0381
mail pecten@lily.ocn.ne.jp



隠岐のいわがき



クリーニング前の養殖イワガキ



中上 氏

概要

- 故郷の海を活かした生活がしたいと考え、昭和53年にイタヤガイの養殖を始めたが、収入時期が限定的であるため、地元海に生息していた大きな天然のイワガキに着目。
- 当初は人工的な種苗生産がうまくいかなかったが、島根県水産試験場(現水産技術センター)の協力もあり、平成4年に全国で初めてイワガキの完全養殖に成功。エサは隠岐海域の天然の植物プランクトンのみであり、海洋環境にも優しく、地域の資源を最大限に活用した産業となっている。

成果

- 養殖成功をきっかけに、隠岐4島にイワガキ養殖が広がり、「隠岐のいわがき」という名称でブランド化。全国的にも面白い自主的な「衛生管理マニュアル」を策定し、生産者全員が統一した取組を行うことで、安全な生食用イワガキとして高い評価を受けている。
- イワガキ養殖業の普及により、所得向上と地域の雇用創出に大きく寄与。隠岐地域では令和5年には31経営体がイワガキ養殖業を営んでおり、水揚金額は全体で1.8億円となった。



詳細は団体のHPから

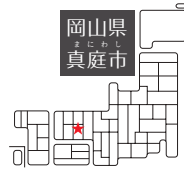
21 クリエイティブ（創造する心）を大切に！

よしえんぎむらぎょうぎかい 吉縁起村協議会



ショウガの契約栽培

- ビジネス・イノベーション部門
- 荒廃農地対策
- 地域のスマート化
- その他（中山間地域のデジタル化）



〒719-3136 岡山県真庭市吉3614-2
(会長 鈴木昌徳)
tel 090-2001-4557
mail yoshiengimura888@gmail.com



無人キャッシュレスのスマートストア



QGIS デジタルマップで地域管理構想



- ◆ 平成26年に地域の小学校廃校が決定。その後も郵便局や路線バスが廃止になるなど、地域の高齢化と相まって、地域活動が停滞。
- ◆ 村の有志による地域看板づくりから始まり、岡山県美作国創生公募提案事業の採択を皮切りに、農業者と非農業者が連携する農村RMOを組織して、農産品、特産品の開発・販売による収益確保と生活支援に向けたデジタル技術を導入。



- ◆ 耕作放棄地を中心に特産品（スイオウ・ショウガ等）や高付加価値のインディカ米種の栽培、加工品の開発。令和2年に拠点施設である有人店舗を開設し、令和5年度は81万円の売上。また、生活の質向上を目的とした無人キャッシュレス店舗の「スマート♥縁起村」をNTT西日本と連携して令和5年10月に開店し、令和5年度は15万円の売上。
- ◆ デジタル技術の導入を推進しており、地籍図データ、農地台帳、中山間台帳、森林簿、空き家情報などをGISに落とし込みデジタルマップを作成。紙ではなくデジタルマップを活用することで地域の計画に関する会議やワークショップの効率が向上。

詳細は団体のHPから



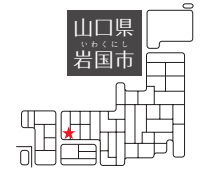
22 マイヤーレモンで郷土愛を育む！

かぶしきがいしゃしんとう 株式会社神東ファーム



オレンジとレモン交配種 マイヤーレモン

- ビジネス・イノベーション部門
- 地産地消
- 移住・定住
- 食育・教育



〒740-1432 山口県岩国市由宇町神東10619-4
tel 0827-63-6036
fax 0827-63-6037
mail info@shinto-farm.com



レモンと家族団らんフォトコンテスト作品



- ◆ 人口減少・高齢化により農業が衰退し、耕作放棄地が増加。
- ◆ 平成30年8月、神東地域振興協議会が地域おこし隊の協力を得て、放棄地を再生して収益性の高い作物（マイヤーレモン）の栽培を構想。間引きレモンの商品化や地元の小中学校での農業学習や給食を通じての普及活動（郷土愛育成）に取組む。産地である三重県に向いて栽培方法を習得し、同協議会の部会として「レモンの会」を発足。その後、各種補助金の支援を受け「レモンの会」を法人化して（株）神東ファームを設立。



- ◆ フォトコンテストの開催、料理研究家考案のオリジナルレシピの公開、摘果レモンを利用した果汁商品の売上を「赤い羽共同募金」へ寄付するなどの取組がテレビや新聞等に40件以上取り上げられ、認知度が向上、販売開始から3年目の令和5年度の売上は445万円に増加。
- ◆ 令和6年7月に学校給食の食材として地元岩国市内の小中学校・幼稚園の給食に採用。市内の栄養教諭が来所し、「子どもたちから大変好評であった」と絶賛。

詳細は団体のHPから



きりぬき



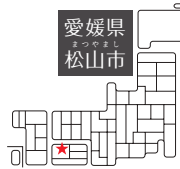
地元の小学生にみかんの勉強会を定期開催

ビジネス・イノベーション部門

農業

企業との連携

学生・若者の活躍



〒799-2430 愛媛県松山市北条
 辻16-6
 きりぬき 代表 鈴木隼人
 tel 080-5660-6563
 mail kirinuki.mikanyama@gmail.com



オリジナルミカンジュース



コラボ商品開発

概要

- ◆ みかん農家でアルバイトをしていた際、規格外品として非常に安く売られたり、山に廃棄されたりするみかんに違和感を覚えた。みかん農家が一生懸命作ったみかんが見た目にこだわりなく適正な価格で販売できるようにすることが課題。
- ◆ 最初は1人で規格外みかんの販売を行い、農家に売り上げを還元。『価値を再定義』というテーマの基、松山市内の柑橘農家から規格外柑橘を預かり、インターネット販売及びジュースへの加工、販売を通して柑橘農家全体の収益底上げを目標に活動。

成果

- ◆ 規格外の柑橘は通常より高値で買い取り、発送等の作業には地元の高齢者や大学生を雇用。依頼農家件数は令和元年度の事業開始から徐々に増加し、令和5年10月～令和6年6月の実績は、70軒の柑橘農家から25種類の規格外柑橘を合計300トン販売。
- ◆ 令和2年度から販売を開始したジュースは令和5年度には1万本を販売。また、令和5年度から地域の既存産業ともコラボをおこない、柑橘のリキュール開発や伊予柑のクラフトビールを開発。

団体のInstagramはこちら ➡



愛媛県立北宇和高等学校

三間分校地域情報ビジネス部



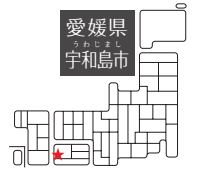
MIMA ライスバーガーを販売・PR

コミュニティ・地産地消部門

農業

地産地消

学生・若者の活躍



〒798-1115 愛媛県宇和島市戸
 雁764番地3
 愛媛県立北宇和高等学校三間分校
 tel 0895-58-2031
 fax 0895-58-3162



ライスバーガー、県外販売の打ち合わせ



プロジェクトのメンバーと商品づくり

概要

- ◆ 宇和島市三間町にある北宇和高等学校三間分校は、令和6年において全校生徒数31名であり、令和7年度より入学生の募集は停止され令和8年度末に閉校、少子高齢化が進行。
- ◆ 三間分校では閉校されるぎりぎりまで、地域の方々とともに三間町を盛り上げたいという思いから、地域情報ビジネス部を設立、本格的に地域と密着した活動を開始。みま米を使ったライスバーガーとスイーツの商品開発とPR活動、愛媛と高知をつなぐJR予土線圏域の学校を招いた活性化シンポジウムの開催など県を超えた交流を実施。

成果

- ◆ 宇和島市内を中心にMIMAライスバーガーの販売・PR活動を行い、令和5年度では970個販売。多くの方からの協力を得て販売ができ、市民からの関心が高まり、地域の活性化に貢献。また、地元企業と連携し、季節に合ったフルーツとみま米を使ったスイーツを開発。
- ◆ 圏域に暮らしている高校生など若い世代が、地域活性化に関する意見を持ち、地域に貢献していく気運が高まり、令和5年度にはマルシェや観光列車のおもてなし、シンポジウムなど17回の活性化活動を実施。

詳細は団体のHPから ➡



25 「NO KATSUO NO LIFE」な鯉乃國

たいしょうまちいちばきょうどうくみあい
大正町市場協同組合



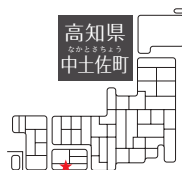
久礼大正町市場アーケード

ビジネス・イノベーション部門

水産業

6次産業化

食育・教育



〒789-1301 高知県高岡郡中土佐町久礼6370-2

mail kure-omiyasan@mc.pikarane.jp



阪神梅田本店フェアでのブース



小中学校での英才カツオ食育授業



- ◆ 90年代前半バブル崩壊で鯉が半値になり商店街客も減少。また、鯉は味の個体差があり、鮮魚店は安くしないと売れず漁師から安く買い叩く悪循環となる。「鯉文化を守ることがこの町を残すこと」を信念に、経済的発展以上に「400年続く鯉を中心とした食文化の継承」が課題。
- ◆ 商店街の田中鮮魚店が選別をし、品質保証する代わりに売値を高くし魚価を上げて漁師を守る戦略をとり、町と連携し久礼の「鯉乃國」をブランド化。一本釣りの鯉は生食、加工、他漁の餌、農業用の堆肥など、久礼の地域内での有効活用に取り組み。冷凍鯉の外食強化、鮮魚店による小中学生への鯉の英才教育による人材育成、「カツオHANDBOOK」による情報発信なども行う。



- ◆ 漁獲、小売、加工までの地域ワンストップ施策、鯉食文化の維持向上、久礼鯉の魚価を1kg約200円から500円までに高め漁師の報酬を確保し、廃船を回避、人材確保に寄与。
- ◆ 明治時代に始まった「久礼大正町市場」では、ワンストップでの質の良い鯉の提供、「釣るプロ、売るプロ、食べるプロ」の三位一体による「土佐久礼かつお」のブランド力を強みに、高知龍馬空港に鯉のオブジェをクラウドファンディングで設置するなど県内外へPRし、現在では年間15万人以上が訪れる県内屈指の観光スポットとなった。



詳細は団体のHPから

26 SDGs 万華鏡 "KAGUYA" プロジェクト

えぬびーおーほうじん

NPO 法人
えすでいーじーず すぱいらる
SDGs Spiral



竹林整備

ビジネス・イノベーション部門

教育機関との連携

食育・教育

学生・若者の活躍



〒802-0981 福岡県北九州市小倉南区企救丘二丁目3番2-115号

tel 090-5936-2362
mail sdgs.spiral@gmail.com



海岸清掃



山と海のゴミで作った万華鏡



- ◆ 北九州市には2,100haの竹林があり、そのうち9割は、所有者の高齢化や後継者不足として放置され、竹林整備・森林保全が課題。また、世界中で問題になっている海洋ごみ。アジア諸国に最も近い場所に位置する福岡県では、流れ着く海洋ごみが多く、海岸の清掃が課題。
- ◆ 農山漁村を守る活動に取り組む中で「山の問題は山で」、「海の問題は海で」と独立した課題として捉えられることが多い。課題を個々に捉えるのではなく、「山」と「海」の課題を包括的に捉え同時に解決・改善するため、子供と大人が楽しく学ぶことができる環境教育プロジェクトにより、環境の課題・資源の大切さ、地球に対して思いやりを育むことを推進。



- ◆ 所有者の高齢化や後継者不足で放置された県内外の13カ所の竹林整備・森林保全に約840名が参加、約650本(約26t)の竹を伐採。また、5年間で県内外の海岸・離島18カ所の清掃活動に延べ約960名が参加し、延べ7,200kgの海洋ゴミを回収。
- ◆ 障害を持っている子ども達(中・高校生)が中心となって全国23カ所でワークショップを実施し、約1,200名の子ども達が参加。山と海のゴミを利用して万華鏡を制作。



詳細は団体のHPから

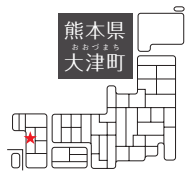
27 創造的復興と経営の選択肢としての農福連携

かぶしきがいしゃ
株式会社なかせ農園



就労継続支援 A 型事業所の作業の様子

- ビジネス・イノベーション部門
- 農業
- 復興
- 農福連携



〒869-1222 熊本県菊池郡大津町岩坂578番地
mail nakase.nouen.info@gmail.com

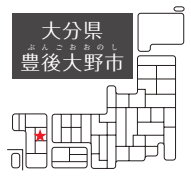
28 冷凍・加工設備が産地の共創力を紡ぎ育てる

かぶしきがいしゃ
株式会社
ぶんごおの
豊後大野クラスター



ベトナムでの試食会

- ビジネス・イノベーション部門
- 6次産業化
- 企業との連携
- 学生・若者の活躍



〒879-7101 大分県豊後大野市三重町宮野4845番地
tel 0974-22-0772
mail info@b-cluster.jp

語りのわだい

悲願のからいも日本一

株式会社なかせ農園は「さつまいもオプ・ザイヤー」受賞

【さつまいも博 2024】が2月20日～25日に埼玉で開催され、株式会社なかせ農園（佐賀）が栽培する「あまはづき」が「さつまいもオプ・ザイヤー」に選ばれました。これは、全国から応募のあったからいもの中から、特に味わいの優れたものを表彰するもので、「風味」や「甘味」が評価されました。「あまはづき」は、収穫直後でも糖度が高くなるのが特徴。中津藩主さんは「産地としての可能性を証明できたと喜ぶ。町内に無いレベルの農産物が多い事を全国に知ってもらえたらいいな」と話しました。

受賞した株式会社なかせ農園の代表取締役社長と中津藩主さん

さつまいもオプザイヤー受賞



再建後の蔵の前で

- 成果**
- 採苗、除草、選果、洗果、出荷調整など幅広い業務を就労継続支援A型事業所の利用者が担当しており、通年で常時4～10名の受入。農園での作業や農福の取り組みをSNSで公開。
 - GGAP取得やDX化、マニュアル化を実施。サツマイモ単品目での周年供給と直販へと販路転換、自社ブランド「蔵出しベニーモ」を商品化するなど環境整備と経営の効率化を図ったことで、耕作面積と売上が拡大し、令和6年度決算では9,025万円となり、被災前の約5倍に増加。



詳細は団体のHPから



規格外甘藷による「濃厚焼き芋パフェ」

- 概要**
- 6つの課題（農林業の振興、地場製造業の強化、特産品の開発・ブランド化、農商工連携のモデル、若者の雇用確保、地域経済の活性化）をぶどうの房（クラスター）に見立て、地域農業者と連携して強いコミュニティビジネスの確立を目指す。
 - 大手食品メーカーの工場が撤退し、大型冷凍設備・加工機器を譲受し、このメリットを活かす農産加工販売を開始。中山間地の食品工場として農業者、行政、地銀、企業、高校等と連携して成長。



甘藷を収穫する障害者と施設職員

- 成果**
- 平成30年に農業参入し、令和6年には自社畑2ha、唐辛子ハウス11棟に拡大。甘藷の契約農家数は令和6年には15戸まで増加。大型冷凍庫を改設し、令和4年から冷凍焼き芋を東南アジアに輸出開始。大分県の水産試験場と共同開発したカボスの粉末を養殖に活用し、「かぼすぶり」のブランド化に貢献するなど売上は徐々に増加し、令和5年度は約5,000万円。
 - 平成29年から甘藷や唐辛子の収穫に数十名の障がい者を受け入れるなど農福連携に取り組むほか、地元の高中生等のインターシップを受け入れるなど将来の担い手育成にも力を入れる。



詳細は団体のHPから

29 高めよう 地域協働の力!

糸満市地域農地・水・環境保全 管理協定運営委員会



農道の草刈り作業に子供達もゴミ拾い

コミュニティ・地産地消部門

農業

環境保全

教育機関との連携



〒901-0392 沖縄県糸満市潮崎町1丁目1番
(糸満市役所 2F 経済部農村整備課内)
tel 098-894-6051
fax 098-894-6052



水路の土砂上げ作業



小学生への出前講座

概要

- ◆ 農地周辺や水路、土地改良施設の維持管理活動が課題。
- ◆ 活動組織を設立する以前は、土地改良区組合員（農家）のみで行っていたが、多面的機能支払交付金の活用をきっかけに地域住民等の非農家を巻き込んだ活動になり、さらに企業団体の協力により教育機関や企業も活動に参加。県内大学と連携し、地元小学校への出前講座や生き物調査などのワークショップ等の幅広い活動を展開して次世代への農村環境教育及び地域文化の伝承に貢献。

成果

- ◆ 沖縄県では赤土等の海への流出が水質汚濁を引き起こし、生態系等へ影響を及ぼしていることから、糸満市赤土等流出防止対策地域協議会と連携し、農地からの赤土流出防止のため、グリーンベルトを設置し、環境保全に取り組む。
- ◆ 地域の農道や排水路のゴミ拾いに子供会や小学校が参加することで、農村の振興について考える機会が増加。また、糸満市内全域約2万8千世帯へ広報誌を配布し、共同活動の普及啓発を推進。

30 農業は永遠の課題、人を動かす（考え方、体、心）

しまぶくろ 島袋 みさえ



人參収穫体験

個人部門

農業

6次産業化

食育・教育



〒904-0301 沖縄県中頭郡読谷村座喜味77番地
島袋農園
tel 080-2717-5275
fax 098-958-2258
mail ninjin.te30@gmail.com



規格外品を使った6次化商品（人參ゼリー）



SDGs サミット 講演

概要

- ◆ 農業には人を動かす力がある。農業への関心は低く、規格外の野菜の利用など課題がある。また、沖縄の土壌は他県の土壌と比較すると保水力・保肥力が低い。
- ◆ 地産地消の取組（情報発信）、家族や仲間とのコミュニケーションの場となる農業体験を通じて、地産の野菜（ニンジン、イモ等）の消費拡大、農業への関心向上、食育に取組む。また、沖縄科学技術大学院大学のスタートアップ企業が開発したEFポリマーを畑に施用。

成果

- ◆ 令和5年度の農業・収穫体験者数は1,130人。また、規格外のニンジンや山芋を活用した商品開発を実施。試験販売では、人參ゼリー200個、山芋パイ800個を完売。
- ◆ 畑にEFポリマーを施用したことで、保水力、保肥力が向上し、生産量が20%増加。「みんなでSDGsサミット 2022 in Yomitan」において、農業が排出する二酸化炭素の減少、地球温暖化防止に役立つことについて発表。



お問い合わせ先

農林水産省 農村振興局 農村政策部 農村計画課 農村活性化推進室

〒100-8950 東京都千代田区霞が関 1-2-1

tel 03-3502-6001 (直通)

「ディスカバー農山漁村の宝」ホームページ

[URL] <https://www.discovermuranotakara.com>



事例に関するお問い合わせや本事例集に関する御意見等がございましたら、
上記又はお近くの地方農政局（沖縄県につきましては沖縄総合事務局）まで御連絡ください。